

## 意見書

### 「豊川水系設楽ダム建設事業の環境影響評価について」

2009年1月3日

環境省希少動植物保全推進委員 大塚 之稔

目次	ページ
ダム事業と猛禽類保護	1
クマタカについて	2
サシバについて	2
ハチクマについて	2
フクロウ科鳥類について	3
ダム建設について	3

#### 【ダム事業と猛禽類保護】

近年、様々な開発事業に関わって猛禽類(一般的にタカ科とフクロウ科鳥類を合わせて呼ばれている)保護の重要性が問題となっている。猛禽類は、生態系(食物連鎖)の頂点にあり(参考図1)、彼らが生きていくためには、その生活圏内に安定した豊かな生物相が保障されていることが必要である。開発事業等により森林が消失すれば、食物ピラミッドの一角が崩れ、真っ先に影響を受けるのは猛禽類である。タカ科鳥類やフクロウ科鳥類の多くが、環境省レッドリスト(絶滅の恐れのある野生生物)に指定されているのはそのためである。レッドリストは、1991年に最初に発表され、その後改訂作業が進み鳥類は2007年に発表されている。

宅地造成・道路・ゴルフ場などの開発により、多くの猛禽類がその個体数を減少させ、中には絶滅が危惧されている種も少なくない。開発事業の中でもダムは、本体だけでなく湛水域、さらには土捨て場・付け替え道路建設によって広大な面積の森林を消失させる。このことが猛禽類の個体数減少に拍車をかけてきたことは疑いない事実である。



図1 食物連鎖ピラミッド  
(原図(財)日本野鳥の会)

豊川水系に計画されている設楽ダム事業の環境影響評価書が公表されているが、猛禽類に関わっていくつかの問題点を以下に述べるものである。

## クマタカについて

意見 クマタカの行動圏解析を十分に行う必要がある。

理由 クマタカは大型の猛禽類でタカ科鳥類に分類され、環境省レッドリスト（絶滅の恐れのある種リスト 改訂 2007）では、絶滅危惧 B類に挙げられている。このクマタカが本事業予定地周辺に3番い（ペア）生息していることが確認されている。アセスメント調査では、コアエリアや繁殖テリトリーは調査されているにもかかわらず、番いの行動圏は明らかにされていない。また、餌場についても解析されていない。3番いの内、2番いはダム完成後の湛水域に繁殖テリトリーの一部がかかっており、餌場の一部が消失する恐れがある。湛水によって消失する面積とクマタカの生息との関係が明らかにされておらず、さらに詳細な調査と分析が必要であると判断する。

意見 クマタカの食性を明らかにする必要がある。

理由 クマタカが継続的に生息、繁殖していくためには、彼らの生息地内に十分な餌場環境が保障されていることが不可欠である。本事業予定地内のクマタカがどのような場所で、どのような餌を食しているか明らかにされていない。食性を明らかにすることは、クマタカそのものの存続に関わる最も重要な調査内容であると考ええる。

意見 近年の繁殖率低下の原因を解析する必要がある。

理由 公表されたデータによると、本事業予定地のクマタカの繁殖成功率は近年著しく低下している。繁殖テリトリーの一部が湛水予定域にかかっている「滝瀬ペア」では、平成14年以降まったく繁殖が成功していない。また、「大名倉ペア」では、調査された平成10年～19年の10年間に繁殖が成功したのは平成15年のみである。この繁殖成功率低下は何によって起きているのかが明らかにされないかぎり、クマタカの保全対策を検討したことにはならないと考える。

## サシバについて

意見 サシバが繁殖できなくなる可能性があり、その保全対策を検討する必要がある。

理由 サシバは環境省レッドリストで絶滅危惧 類に指定されているタカ科鳥類である。本種が本事業予定地周辺に繁殖していることが、平成14年以降の調査で確認されている。本種はヘビ・カエル・トカゲ等の両性・爬虫類や大型の昆虫を主な餌としており、これらの餌を谷合で耕作されている水田（谷地田）で捕っていると考えられる。ダムが建設されることで農耕地そのものが消失したり、離村によって耕作されなくなったりすることで餌場環境を消失させることが考えられる。

## ハチクマについて

意見 ハチクマの繁殖調査をするべきである。

理由 ハチクマは環境省レッドリストで準絶滅危惧種に挙げられているタカ科鳥類で、平成 19 年度に本事業予定地付近で生息が確認されている。同じ準絶滅危惧種であるオオタカも予定地周辺で確認されており、平成 12 年以降、行動圏や繁殖調査が行われているが、ハチクマについては十分な調査が行われていない。平成 19 年度のハチクマ調査によると、事業予定地周辺にかなりの飛翔が確認されており、複数の番いが繁殖している可能性がある。本事業が本種に与える影響を予測し、保全対策が検討されるべきであると考え。

## フクロウ科鳥類について

意見 フクロウ科鳥類の調査をし、保全対策を検討すべきである。

理由 本事業予定地に生息の可能性が高いフクロウ科鳥類として、フクロウ・コノハズク・オオコノハズク・アオバズクの 4 種が考えられる。タカ科鳥類を昼の猛禽とすると、フクロウ科鳥類は夜の猛禽であり、よく似た食性をしていることから、クマタカやサシバ・オオタカなどが生息していることは、上記フクロウ科鳥類も生息している可能性は極めて高いと言える。フクロウ類は、樹洞を営巣場所にしており、本事業が施工されれば繁殖樹洞を含む森林が消失する恐れがあり、保全対策を検討すべきであると考え。

## ダム建設について

意見 ダム建設計画の中止を検討すべきである。

理由 過去、日本においては水力発電を目的としたダムが建設されてきた。しかし、発電量に対する膨大な費用、完成するまでに要する期間等の理由もあって、近年は火力や原子力発電が中心になってきている。さらに、風力発電や地熱発電などが開発されてきている。

治水あるいは利水の目的で建設されているダムも多い。しかしながら、100 年とか 200 年の洪水に備えるという目的から造られたダムが、僅か十数年で土砂が堆積し、その効果が疑問視されているダムもある。利水面においても、戦後の高度成長期に多くの工場が多量の水を必要とし、不足する水を補う目的で計画されたダムも多い。近年は水を再利用するなどの企業努力で、当初予測していた量の水を必要としなくなっている。

30 数年前に計画されたダムが、現在その建設目的を失っているにもかかわらず、見直しがされていない。一度計画されたダムは何が何でも造ろうという姿勢がみえる。

上記に述べたように、ダムは広大な森林を消失し、そこに住む多くの生物を犠牲にしてきた。建設にかかる膨大な費用以上に価値ある森林や生物をである。治水や利水の問題はダム以外の方法で解決できる可能性が高いと考えられることから、計画されている「設楽ダム」においても中止の検討をすべきであると提案する。